

## 令和元年度第1回京都市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和元年8月1日 木曜日  
開会 9時30分 閉会 11時30分
- 2 場 所 京都市役所 3階 第一応接室
- 3 出席者 京都市長 門川 大作  
京都市教育長 在田 正秀  
京都市教育委員会委員 奥野 史子  
京都市教育委員会委員 星川 茂一  
京都市教育委員会委員 高乗 秀明  
京都市教育委員会委員 笹岡 隆甫
- 4 関係者等 <PTA>  
京都市立幼稚園PTA連絡協議会会長 村田 真由子（中京もえぎ幼稚園）  
京都市小学校PTA連絡協議会会長 大澤 彰久（安朱小学校）  
京都市立中学校PTA連絡協議会会長 植松 明彦（久世中学校）  
京都市高等学校PTA連絡協議会会長 野上 孝哉（日吉ヶ丘高等学校）  
京都市立総合支援学校PTA連絡協議会会長 久保 江里子（西総合支援学校）
- <京都市関係者>  
京都市副市長 村上 圭子  
京都市総合企画局長 藤原 正行  
京都市子ども若者はぐくみ局長 久保 敦  
京都市教育委員会教育次長 稲田 新吾  
京都市教育委員会総合教育センター所長・指導部長 佐藤 卓也  
（※ 出席者のうち、局長級のみ記載。）

5 傍聴者 2人

### 6 議事の概要

#### (1) 開会

9時30分、門川市長が開会を宣告。

## 【門川 市長】

令和に入って初めての総合教育会議。「首長と教育委員会による協議・調整の場」という総合教育会議の制度の枠を超えて、「拡大版」の総合教育会議として、本日は「学校の最大の応援団」であるPTA・保護者の代表の皆様にご参画いただいた。感謝申し上げます。

令和の時代が始まって本日でちょうど3か月。この先どのような時代になるのか誰にもわからないが、明確なことが2つ。そして心配なことが1つある。

1つ目は地球温暖化である。災害の続発等も深刻な状況にある。何としても温暖化を止め、次の世代の未来のために総力を挙げて取り組んでいく必要がある。2つ目は、日本の人口が激減する一方、世界においては激増することが見込まれている。

同時に心配なことは、地域コミュニティの弱体化や人々の孤立化。8050問題等の社会課題も顕在化している。また、20年後には日本では一人で生活する世帯が4割程度になる。こうした課題を克服し、持続可能な社会をどのように築いていくのか、そのために、社会全体でどのように取り組んでいくのか、意識改革・行動改革も含めて、大人社会の具体的な行動が問われている。

また今年、番組小学校創設150周年の節目の年。地域ぐるみ・市民ぐるみで子どもを育むという伝統は、現代にも受け継がれており、地域・PTAが学校の最大の応援団となり一人一人の子どもの成長をしっかりと支えている。本日お越しいただいたPTAの代表者の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて人生100年時代と言われている。そして、何よりも、今、学校で学んでいる子どもたちこそが、令和、そして21世紀の主演として、持続可能な社会をけん引していく存在。そしてこの子どもたちの多くは、人生100年を生きる。22世紀まで生きる子どもたちに、その人生の基盤・土台となる力をどのように育てていくのかが、学校教育の大変重要な使命であり、課題である。また「誰一人取り残さない社会」「誰もが学び続けることができる社会」の実現に向け、学校教育、生涯学習の環境づくりが必要だと考えている。

一昨日（7月30日）には、私が部会長を務める、指定都市市長会の「文化芸術・教育部会」が開催され、「これからの教育について」をテーマに、学校現場の働き方改革のあり方や、今日的な教育課題等への対応について議論してきた。本日は、特定のテーマを設定するのではなく、PTAの代表の皆様にも御参画頂く中で「次世代の学び舎づくり」という大きな視点で、京都の教育にとって必要だと考えておられることについて、様々な視点から意見交換を行いたいと考えている。

昨日から今朝にかけて、今年度の学力学習状況調査の結果が公表された。京都は私学発祥の地であり、小学校で1割、中学校で2割が私学に進学していると言われていた中で、京都市の公立小・中学校は毎年健闘している。日々の皆さんの努力に敬意を表する。

さて、society5.0といわれる超スマート社会の実現に向けた人工知能・AIやビッグデータの活用等の技術革新が急速に進展する社会に生きる子どもたちへ、今後、どのような力を身につけさせるのか。また、様々な困りを抱えた子どもへのきめ細かな対応や、いじめ・

不登校、子育ての孤立、家庭の経済状況等に起因する親の困りへの対応など、学校教育を取り巻く多様化・複雑化した課題へ、どのように学校組織として対応していくのか。そして、教員の長時間勤務を是正し、持続可能な学校組織の確立と教育の質の向上を実現するためには、これからの学校はどうあるべきか。

私は、こうした多様な課題があるからこそ、京都の教育が大切にしてきた市民力・地域力を生かし、未来志向で議論することで、これからの展望を開いていくことが大切だと考えている。本日は、様々な視点から御意見を頂き、忌憚のない意見交換を行いたいと考えている。よろしく願います。

## (2) 意見交換

### 【事務局】

意見交換を行うにあたり、教育委員会事務局 佐藤総合教育センター所長から本市の教育施策等について説明させていただきます。

### 【教育委員会事務局 佐藤総合教育センター所長】

私からは、本日のテーマ「次世代の学び舎づくり」の議論の概要として、本市の教育理念や目指す子ども像、この間学校園とともに進めてきた教育施策等について配布資料に基づき簡潔に説明させていただきます。

まず、表紙には元開智小学校の正門を掲げている。市長からもあったように今年には番組小学校 150 周年。こうした歴史を受け継ぎながら今がある。

本市教育理念は「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」である。京都市では、総合教育センターで実施する教員研修や校内での会議、教員採用試験の説明会等の様々な場面で、この教育理念について説明している。働き方改革でも「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という教育理念を添えて、色んな取組を各校園で進めている。

次に新学習指導要領の理念について説明する。「生きる力 学びのその先へ」。小学校では、令和 2 年度から、中学校では令和 3 年度から全学年で、高校では令和 4 年度から学年進行で新学習指導要領がスタートする。変化の激しいこれからの社会や学校を取り巻く環境が、多様化・複雑化している中で、新しい学習指導要領の論議は 2030 年、あるいは 2040 年の子どもたちの未来という視点で検討が始まった。この 4 月に文部科学省から配布された保護者向けパンフレットで簡潔に内容が紹介されている。その中では、「学校で学んだことが、明日に、そして将来につながるように、子供の学びが進化します」とある。点数がどれだけとれるかではなく、学校で身に付けた力が、生きる力として社会に出た時にどれだけ役に立つのか、何ができるようになるのか等をより重視する学習指導要領に改められている。

次頁をご覧ください。その生きる力を育む基本的な考え方として、確かな学力、豊

かな心、健やかな体の3つのバランスを重視して生きる力をつけるよう取組を進めている。

次に、本市の教育施策について紹介する。

まずは、確かな学力の育成としての授業改善についてである。本市では、すべての教職員が、カリキュラムマネジメントや主体的・対話的で深い学びの視点から、創意工夫あふれる授業展開を目指している。つまり、学校教育全体あるいは地域の方と教育課程を一緒に作っていきこうというもの。また、教員が子どもに一方向的に教え込む授業ではなく、子どもたちが主体的に意見を出し合いながら深い学びを重視する授業を展開している。そして教育委員会では研修や指導資料の充実を図り、優れた授業実践を支えている。推進施策としては、スタートカリキュラムの作成、小中一貫学習支援プログラムの活用、アクティブラーニングの視点からの指導方法改善実践研究、本市独自予算での少人数教育、全中学校での放課後学習、全小中学校での土曜学習、全市立高校での「学びの基礎診断」を活用した基礎学力定着に向けたPDCAサイクルの構築、総合教育センター平日夜9時、土曜夕方5時まで開館及び約5.5万点の教育関係資料の配架、教員等の資質の向上に関する指標の策定及び同指標に基づく教員研修の実施等を展開しているところ。

次に、生き方探究教育である。京都市では、キャリア教育のことをあえて生き方探究教育と呼んでいる。キャリアというとややもすればどんな仕事につくのかというスキルアップ等をイメージしがちになるが、仕事だけではなくて、仕事も含めた自分の生き方そのものについてどういう風に考えていくのかという視点を大切にしているため。そしてこうした考えのもとで、「京都まなびの街生き方探究館」を拠点に全校で「生き方探究教育」を推進している。推進施策としては、京都市キャリア教育スタンダードの作成、多くの企業の協力により実施しているスチューデントシティ・ファイナンスパーク体験、生き方探究・チャレンジ体験、京都モノづくりの殿堂・工房学習（小学4年～6年生）、市立高校での約100社の企業等におけるインターンシップの実施、総合支援学校デュアルシステム等を推進している。デュアルシステムとは、総合支援学校の高等部の生徒が、総合支援学校における授業と3年間で30週間にわたる企業における長期実習を組み合わせ、企業に求められる職業人の育成を目指す取組のことである。

次に、伝統文化・芸術体験である。文化庁の京都への全面移転や昨年度の総合教育会議での議論も踏まえ、今年度から3年計画で全小学校での茶道体験、全中学校での華道体験ができるよう環境整備に取り組んでいる。また、全市立高校でも茶道・能楽鑑賞等を実施、市立幼稚園大会での京都市交響楽団による親子コンサート、小学生のための音楽鑑賞教室、障害のある方の芸術活動支援（天才アートKYOTO）等にも取り組んでいる。

続いて、豊かな心の育成を目指した道徳教育・自然体験について。幼稚園期には「遊び」を通じて協調性や自尊心等の非認知能力を育むとともに、小中学校においては「考え・議論する道徳」を実践し、子どもたちの道徳性や規範意識を育てている。また、集団生活や自然の中での体験活動など長期宿泊体験活動を通して、責任感、豊かな人間性や社会性を育む取組を推進しているところ。推進施策としては、全校での道徳教育推進教師を核とし

た道徳教育の推進、本市独自の道徳指導資料集の作成、長期宿泊、自然体験推進事業等を実施しているところ。

次に、健やかな体の育成を目指した体力向上・食育について。全国体力テストの数値が男女ともに全国平均を下回る状況を改善するため、小中高の全校全学年で「新体力テスト」を実施するなど、子どもたちの体力向上に向けた取組を推進している。また、本市独自に作成した、食育スタンダードに基づき、各校において創意工夫を凝らした食育を推進している。推進施策としては、ジャンプアップ・プロジェクトの実施、外部コーチ派遣・部活動指導員の配置等による運動部活動の充実、部活動ガイドラインの策定、栄養教諭の全小学校への配置、プロの料理人に協力いただき学校で食育授業を行う日本料理に学ぶ食育カリキュラム推進事業、小学校における月1回の和（なごみ）献立の提供、選択制中学校給食の充実等に取り組んでいる。

次に、総合育成支援教育、いじめ・不登校対策についてである。本市では医療的ケアが必要な子ども等、一人一人のニーズに応じたきめ細かな教育を推進している。また、いじめや不登校に対応するため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡大等により、教育相談体制の充実を図っているところ。推進施策としては、看護師配置により医療的ケア実施体制の整備の推進、入院児童生徒等へのICTを活用した遠隔教育の実施、小学生・中学生がどうすればいじめを無くせるか等を共に考える、京都市子ども未来会議の開催等に取り組んでいる。

次に、教職員の多忙化解消に向けた、働き方改革についてである。これも昨年度の総合教育会議で議論していただいたが、本市では、PTA、校長会、教育委員会の連名による「働き方改革推進宣言」の下、保護者や地域の御理解と参画、外部人材や専門スタッフの配置拡大等により、教職員が子どもと向き合う時間を確保し、教職員の長時間勤務の解消に向けた取組を推進している。特に「働き方改革推進宣言」の効果は大きく、保護者や地域の理解が進んだことで、学校での電話対応終了時刻を設定しやすくなる等、各学校での働き方改革の促進につながっている。この他、校務支援員、部活動指導員の配置拡大、中学・高校部活動での外部コーチ派遣、教務主任補佐の配置、小学校5・6年生への専科教員の配置、教職員出退勤管理システムの導入、学校閉鎖日の拡大等に取り組んでいるところ。

次に、新しい時代を見据えた教育としての未来型教育やICT環境の整備についてである。本市では、予測困難な時代を生きる子どもたちの情報活用能力等を育成するため、AIを活用した最先端の実践研究やLINEと連携したプログラミング教育などの実践研究を進めている。また、普通教室へのインターネット接続環境の整備等ICT環境の計画的な整備を促進している。こうした中で、NEC、京都大学との連携による未来型教育京都モデル実証事業、株式会社LINEとの包括連携協定に基づくプログラミング教育の充実、京都大学、西京高校、西京附属中学校が連携した「エビデンスに基づくテラーメイド教育の研究開発」（内閣府プロジェクト）の実施、全普通教室への無線LANの整備、タブレット型PCの計画的整備等を進めているところ。

最後に目指す子ども像についてだが、本市では目指す子ども像として「伝統と文化を受け継ぎ次代と自らの未来を創造する子ども」を掲げている。昨年度まで「伝統と文化を受け継ぎ次代と自らの未来を切り拓く子ども」という表現をしていたが、今年度から切り拓くという表現を創造するとした。これからの社会を考えた中で、未来を切り拓くというよりも多様な人々と協働しながら未来の社会を創造していくことがより重視されることから変更したもの。私からの説明は以上である。

**【在田 教育長】**

本市では多岐にわたる取組を進めているが、本日はこれからの学び舎がどうあるべきかについて未来志向で様々な角度から議論してまいりたい。

現在、学校教育は大きな転換点を迎えている。新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という理念を掲げ、思考力・判断力・表現力を基にして、学びに向かう力や人間性を高めるべく学校教育を変えていこうとしている。そうした中で、PTAの皆さんが日々、学校・幼稚園で活動する中でお考えになっていることから伺っていききたい。

**【植松 中学校PTA連絡協議会会長】**

先日東京に出張する機会があり、京都出身で東京の霞が関で働く友人と話す機会があった。その中で、彼は京都市立の小学校・中学校で学んで本当によかったと言っていたことが印象に残っている。その理由を尋ねると、市立学校は多様性があり、色んな人がいて色んな考え方があることを肌感覚で感じることができ、その時の経験が、仕事をする上で、非常に役に立っているとのことだった。私も同様の考えであり、現在、アクティブラーニングの視点から、子どもたちが主体的に意見を交わす中で授業を展開しているが、様々な人や考え方があることに子どもたちが触れて育つことにより、社会に出た時に役に立つ、生きる力につながっていくと思う。

**【村田 幼稚園PTA連絡協議会会長】**

幼稚園では、2018年度から新しい幼稚園教育要領がスタートしており、その中で、幼児期の終わりまでの育ってほしい10の姿を掲げられているが、ほとんどの保護者がその内容を知らない。これは非常にもったいないこと。今年の10月から幼児教育無償化がスタートすれば、現在よりも質の面で幼稚園と保育園が比較されることとなる。

市立幼稚園では、日々教職員の皆さんが研修等により自己研鑽をされ、遊びを通じた自由な保育の中で子どもたちの未来につながる力を育てている。私も機会がある度に、市立幼稚園の魅力をPRしているが、市立幼稚園での素晴らしい教育実践を多くの人に届けられれば、もっとたくさんの方が集まってくるはず。これから幼稚園・保育園への入園を希望される方に、市立幼稚園の魅力を確実に伝えるしくみ考えていく必要があるのではないか。

**【大澤 小学校PTA連絡協議会会長】**

夏休み期間は、毎年地域でラジオ体操を実施しているが、昔に比べ参加する子どもが少なくなってきた。冒頭、市長から地域コミュニティの弱体化についての話があったが、PTAとしても地域コミュニティの活性化に向けた取組を考えていかなければならない。

学校教育については、新学習指導要領が小学校で来年度からスタートすることに伴い、英語教育やプログラミング教育等の新しい学習内容も盛り込まれ、先生は今以上に忙しくなる。先生の多忙化を解消するとともに、学校教育の質を上げていくには、現在5年生・6年生に導入している専科教員を中学年以下にも配置拡大することや、教科担任制の導入等についても検討していく必要があるのではないかと。

**【在田 教育長】**

本市では、15年前から専科教員の配置を全国に先駆けて導入しており、昨年度からは、これまで6年生だけであった専科教員の配置を5年生にも拡大した。今年度から文科省では、中教審において、小学校への教科担任制の導入等について議論が始まっているところであり、こうした国の動向も注視しつつ、更なる教育環境の充実につなげていきたい。

**【野上 高等学校PTA連絡協議会会長】**

PTA活動に携わるようになったことで、学校でどのような教育活動をしているのかを間近で見ることが増えたが、まだまだ知らないことばかり。今日も冒頭の推進施策の説明の中で、西京高校でICTを活用した先進的な研究を実施していることを初めて知った。

また、令和2年度から大学入試改革によりセンター試験が大学入学共通テストに変わるが、保護者としては、制度についての情報収集も大変。市立高校での各校での特色ある教育実践をはじめ、大学入試改革等についてもっと情報発信していただけたらありがたい。そして保護者もそうした情報をもとに勉強していく必要がある。

**【在田 教育長】**

現在取組が進められている様々な教育改革について、より保護者等に対してわかりやすく発信していく必要があると感じている。ICTを活用した授業研究等についても、どんな効果があるのか、何のために実施しているのか等について情報発信してまいりたい。

**【久保 総合支援学校PTA連絡協議会会長】**

昨年、特別支援教育に係るPTAの全国研究協議大会が京都で開催され、様々な方と話をする中で、京都市では平成16年に全国で初めて知的障害や肢体不自由等の障害種別の垣根を越えた総合支援学校に再編し、地域の障害のある子どもや保護者等に対しても一人一人のニーズに応じたきめ細かい支援を施してきたことを知り、京都の総合支援学校の素晴ら

しさを実感した。

また、京都市では地域の子どもは地域で育てるという理念を大切にされており、自分の子どもが通う西総合支援学校でも、地域の方との交流機会を設けていただいている。障害を抱えた子どもは、家と学校を往復するだけになりがちだが、様々な人とのつながりは、子どもの健やかな成長につながる。こうした取組に加えて、行政区を超えた学校同士や地域との交流機会も設けていただきたい。例えば、西総合支援学校は西京区にあるが、私の自宅がある右京区の市立学校との交流機会等を設けてもらいたい。

#### 【在田 教育長】

総合支援学校に通う児童・生徒と市立学校の子どもたちとの交流については、総合支援学校長会からも要望をいただいているところ。残念ながら、人員の問題等により実施回数が限られているが、少しでも拡大していけたらと考えている。

#### 【門川 市長】

5校種のPTAの皆様からの御意見を聞かせていただく中で、キーワードは多様性だと感じた。一人一人に子どもたちに多様性があり、その多様性を感じ、互いに認め合い、学び合うことの大切さを改めて認識した。

久保会長からは、総合支援学校再編についての話があったが、当時は様々な反対意見があり、不安に思う保護者の方もたくさんおられた。しかし、障害のある子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる先生方、教育委員会、そして保護者・地域が侃侃諤諤に議論を重ねた結果、国が制度化する3年前に全国に先駆けて地域制・総合性の総合支援学校の創設に至った。

そして現在では、就職を希望する生徒や保護者の願いに応えるため、働くための幅広い知識や技術を学ぶ高等部職業学科も創設。障害者技能競技大会（アビリンピック）のビルメンテナンス部門等で、総合支援学校高等部の生徒が最優秀賞を受賞するという素晴らしい成果にも繋がっている。また、東山総合支援学校では、地域にあるホテルの調理人やパティシエが学校を訪問し直接指導していただいております。その結果、4人が調理師やパティシエとしてホテルに就職することが決まりました。まさに、新学習指導要領が目指す、学校での学びが将来につながっている事例である。

このように、本市では様々な課題に対して真正面から向き合い、教育改革を進めてきた。しかし、我々は常に先を見据え、これからどうしていくかを考えなければならない。その方策として、PTAの皆様からは具体的な提案もいただいた。専科教員の拡大等、しっかりと議論して、教育環境の向上につなげてまいりたい。

また、現在本市ではタブレット型PCの計画的整備を進めているが、この先の次代を見据えると、紙の教科書ではなくデジタル教科書を使用することが当たり前になる等、日常的にタブレット型PCを使うことが前提になれば、昭和の時代に教科書が有償から無償化



されたよう、国策としてタブレット型PCも無償化される時代が来るのではないだろうか。こうした未来が来ることも想定しながら、今できることを精一杯やっていくことが大切。

#### 【笹岡 教育委員】

先ほど市長からもあったように、これからの京都の教育の在り方を考える中でのキーワードは多様性。子どもたちが多様なものを受け入れるためには寛容性が必要。その寛容性を育むには自己肯定感を感じる必要があるとあり、そのためには多様な経験をすることが必要。今年度から小学校では茶道体験、中学校では華道体験を全ての児童生徒が体験していくことになるが、こうした多様な経験は社会に出た時にも大きな力となる。

また、地球環境のこと等も考えれば、今後様々な場面でペーパーレス化が進んでいく。市長からもあったように、教科書がデジタル化されていくことも見据えた、ICT環境の整備を推進していく必要がある。

この他、PTAの皆様からは、専科教員の中学年以下への配置拡大、クラス担任制の見直し、保護者への教育施策の情報発信、親の勉強機会の提供等の意見があったが、この中からできることを一つ一つ着実に実施していくことが大切ではないか。

#### 【在田 教育長】

今年度からデジタル教科書が制度化されており、また紙媒体の教科書にも、QRコード等が掲載されており、それをタブレット型PCで読み取ることで様々な情報を取得できるようになっている。今後、教科書が紙媒体でなくなる日も近いのではないと感じており、先を見据えた対応が必要だと考えている。

また、これからの時代を生きていくためには、知識の習得だけでなく、どう活用するかが大切。そのためには子どもたちの創造力を育む必要がある。しかし現在は、芸術教育の授業時間数が減少しており、昔は週2時間程度であったが1.5時間程度になっている。今後、子どもたちの芸術教育をもう少し踏み込んで実施していかなければならないと考えている。

#### 【奥野 教育委員】

私自身、3人の子どもを計10年以上保育所に通わせていたが、働く保護者が増えている中で、より一層幼稚園と保育園の連携を進めていく必要がある。一つの提案だが、子ども若者はぐくみ局と連携し、この場に保育所の関係者も交えて議論することができれば、スタートアップカリキュラムの中身等も、よりよいものにしていけるのではないか。

また、ICTの活用により教科書がデジタル化されていくという話もあった。デジタルを使いこなす力は欠かせないが、仮に身の回りからデジタルが無くなった時に、デジタルに頼らずとも生きていくことができる力を学校教育の中で育むことができるかがポイント。近年は大規模な自然災害等も数多く発生しているが、そうした想定外の事態が起きた際やサバイバルな環境に置かれた時に、柔軟に対応することができる発想力や創造力を育て

いく必要がある。

地域コミュニティの弱体化という話もあったが、子どもは親の姿をよく見ているもの。親が自治会や地域の活動に興味を示さなければ、子どもが地域活動に参加する機会もなくなる。もう一度、子どもを真ん中に置いて、自分の子どもだけでなく社会全体で地域の子どもを育てていくことが必要だと感じている。

#### 【門川 市長】

親が地域コミュニティに関心がなければ、子どもも関心がなくなるのはその通り。まずは、親世代が地域活動に熱心に取り組むことが大事。それが、次世代の担い手を作っていくことにつながる。

また、新学習指導要領の理念は生きる力だが、私が中教審の委員を務めていた時には、生きる力とともに生き合う力も掲げてほしいという意見を申し上げた。人が生きていくうえで、人と人とがつながり、他者と協働していくことが大切。いつの時代にも必要な力である。

#### 【在田 教育長】

現在の教育は、何もかもが用意され過ぎていているという側面もある。何もない所から新しいものを作り出す創造力を子どもたちに身に付けさせることが大切だと感じている。

来年度から小学校でもプログラミング教育が始まる。様々なプログラミング教材も開発されているが、プログラミング教育の本来の目的である、物事を論理的に考える力等をしっかりと育むことができる教材を選んでいく必要がある。

#### 【高乗 教育委員】

多様性ということがキーワードとなっているが、京都は都として古くからたくさんの方が集まる場所であり、様々な人が交わることで常に新たなものを生み出してきた。そうした意味で、京都は多様性と先進性を兼ね揃えたまちである。

今年で番組小学校創設 150 周年を迎えたが、明治初期にも関わらず、当時の学校には、地域の方の寄付によりピアノや顕微鏡、天体望遠鏡などが備えられており、最先端を学ぶことができる場所であった。

さて、来年度から新学習指導要領が小学校で全面実施される。これまでは、わかる、できる等の知識が学力の中核とされてきたが、これからは知識だけでは不十分で、困難な状況でも目標に向かって頑張ろうとする意欲や他者と協力しながら目標を達成する協働の力など、いわゆる非認知的能力を育むことが重要となる。これからの社会では、様々な課題や困難に遭遇した時、自分一人ではなく、他者と力を合わせてそれらを解決に導いていくことが求められる。そうした課題解決に取り組むプロセスを学校教育の段階から子どもたちが経験していくことが肝要である。

教育基本法の第 1 条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とある。これはいつの時代にも通じる教育の普遍的な理念、目的である。地域コミュニティの弱体化が危惧されているが、子どもたちが民主的な国家及び社会の形成者として、よりよい地域を、どのようにして自分たちで作っていくのか。まず、学校でこれを考え、体験できるようにしていく必要がある。近年、地域によっては、以前は大人だけで運営していた夏祭りを、子どもたちもスタッフの一員に加えて実施しているところがある。将来の地域社会の担い手を育てる取り組みである。学校や地域社会でこうした経験を積み重ねることが、これからの子どもたちには必要ではないか。

#### 【星川 教育委員】

本市教育の原点は「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」。この理念を具現化するにはどうしたらいいのかを、教職員はもとより、保護者・地域みんなと一緒に考え、行動してきた結果が今の本市教育につながっている。そして、この先どうするか、そこが問われている。

主人公は子ども、そして子どもを支える教職員である。タブレット型PCの配置充実など、ICT環境の整備ももちろん大切だが、いつの時代も子どもと教職員がいきいきと輝いていること。これを基本として学校づくりを進めていく必要がある。

私が子どもの頃は55人学級であり、教科書も有償であった。今は、少人数学級で教科書も無償で提供される。では、昔の教育はダメだったのかと言われれば、決してそうではなかった。大切なことは教育条件の整備だけではなく、子どもと教職員のふれあいや子どもたちが互いに力を合わせて何かを成し遂げる経験である。ここが学校教育の本質的な部分であり、いつの時代も変わらず大切にしなければならないこと。

教育の本質的部分を大切にしながら、明日子どもが行きたいと思う、そして教職員も子どもが輝くにはどうしたらいいのかをいつも考えている、こうした素晴らしい学校をこれからもつくっていったらいい。

#### 【植松 中学校PTA連絡協議会会長】

笹岡委員から子どもたちが、多様な価値観を受け入れることができるようにするためには、寛容性を育む必要があること。そして自己の寛容性を育むためには、子どもたちが多様な経験をする必要があると仰っていたが、特に幼児期から高校を卒業するまでの間に、そうした多様な経験を積ませることで、子どもたちの生き合う力につながっていくと感じた。

#### 【村田 幼稚園PTA連絡協議会会長】

私は、普段パソコン教室の講師を務めており、子どもたちにプログラミングを教えてい

る。本日の議論の中で奥野教育委員から、身の回りにある当たり前がなくなった時にも、子どもたちが自分で考え生きていくことができる力を育むこと大切という話があったが、そのことは私も常に意識しながら子どもと接している。

私がプログラミングを教える際には、プログラミング教育はプログラマーを育てるための教育ではなく、物事を論理的に考える力を身につけるためのものだと伝えている。

現在、何かと人間の仕事がコンピューターに取って代わられることが話題に挙がるが、以前子どもたちと一緒に、この先の将来も変わらず残り続ける仕事は何かについて話し合った。子どもたちの答えは、自分で物事を企画する仕事や芸術に関連する仕事というものだった。本日の会議に参加して、改めて子どもたちの創造力や物事を考える力を育てていく必要性を感じた。

#### 【笹岡 教育委員】

本日の会議では、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力として、想定外の事態が起きた際やサバイバルな環境に置かれた時に、柔軟に対応することができる発想力や創造力、プログラミング教育を通じた論理的思考力等が挙げられたが、ここにもう一つ挙げるとすれば、疑う力も必要ではないだろうか。例えば、私たちがインターネットで買い物をするときには、ついつい「おすすめ」として紹介されている商品を選びがちだが、それを無批判に信じるのではなく、一度立ち止まって自分の価値基準に照らして考えてみるのが大切。こうした思考力も子どもたちに育てていく必要がある。

#### 【在田 教育長】

AIにはできないことを子どもたちに伝えていくことが必要。それは、まさに生き合う力に集約されるのではないか。他者を認め、受け入れ、協働する中で新しいものを生み出していく。こうした力を子どもたちに育むことが我々大人の使命。そして、機械は一瞬で物事の優劣を判断し、序列をつけてしまうが、人間の社会では、真ん中よりも下にいる人たちを助け、支えていくことが重要であり、それが我々の役割ではないかと考えている。

#### 【久保 子ども若者はぐくみ局長】

奥野教育委員から、幼稚園と保育園の連携、そして小学校との連携をより一層密にしていく必要があるという話があったが、子ども若者はぐくみ局と教育委員会では幼少接続のプロジェクトチームを作り取組を進めているところ。市内の5歳児の半数以上が保育園に通っている状況を踏まえると、しっかりと小学校につないでいくしくみづくりが必要と考えている。また何らかの困りを抱え、支援が必要な未就学児は、約1800人にのぼり、5年前に比べて500人近く増えてきている。

こうした中、子どもはぐくみ局では、「子育ての楽しさや喜びを伝える」ということをテーマに、保護者への情報発信に力を入れている。経済的な面などから子どもをもつことを

否定的に捉えてしまうこともあるが、保護者一人一人に対して、子育ての楽しさや喜びはもとより、子育てを通じて人と人とのつながりが広がっていくことの素晴らしさ等をしっかりと伝えられるようにしていきたい。

**【在田 教育長】**

現在、国では高大連携改革が進んでおり、大学共通テストの導入や、学びの基礎診断という高校段階から民間のテストを活用しながら、生徒の学力の到達度を図りながら進路指導していこうという取組が進められようとしている。大学政策を所管している総合企画局から、そのあたりのことについて少しお話を聞かせていただきたい。

**【藤原 総合企画局長】**

お手元に「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」という冊子を配布させていただいている。この冊子は、京都市と大学コンソーシアム京都が協働で作成し、本市としての大学政策を進めていくうえでの指針が記載されており、今後5年間で推進する大学等の高等教育振興に係る計画である。なお、この冊子の中では初等中等教育との連携や接続についても記載しているところ。小・中・高等学校の児童生徒、大学で学ぶ学生、さらには教職員も含めて学びの質を高め、互いに学びあって成長し、生きる力を高めていく必要があることを考えると、やはりこうした連携や接続は非常に大切になってくる。その具体的な取組として、例えば、教職員同士の交流を促進したり、学校・幼稚園において大学生の活躍の場の創出、産学公連携の教育システムの構築や発信等を、市内38の大学・短期大学と共に進めていきたいと考えている。本日お集まりの皆様には、今後とも、大学教育も含めた御指導、御鞭撻をお願いしたい。

**【在田 教育長】**

年間2000人程度の大学生が学校・幼稚園で学校支援ボランティアとして活躍していただいている。また、教育実習では、年間500人程度の大学生を市立学校で受け入れている。

その中で、学校現場の教職員にお願いしているのが、子どもたちの教育に携わることが大変楽しく、素晴らしい仕事であることを発信していくこと。残念ながら、全国的には、教員の志願倍率は下落傾向が続いている。本市では全体で6倍台を維持しているところだが、他都市では小学校が1倍台のところもある。教員の仕事は、しんどいこともあるが、子どもと関わること、その成長を支えていくことは非常に貴く、楽しい仕事であることを今後とも多くの学生に伝えてまいりたい。

**【村上 副市長】**

本日の会議の中で、子どもたちの多様性や、その多様性を受け入れる寛容性。その寛容

性を育むためには自己肯定感があるという話を聞き、人々の孤立化の問題や8050問題を解決するための根底にあるものを深く考える機会となった。また、本市では昔から学校現場の教員の意見を生かして教育行政の先端を担ってきたという話を伺い、こうした姿勢は、他の職場でも生かしていけるのではないかと感じた。

また、来月9月1日から7日にかけて、国際博物館会議 ICOM京都大会が開催されるが、多様な子どもたちの多様な興味を育てていくためには、京都の市内に数多くある、美術館や博物館をうまく活用するとともに、子どもも大人も学べる場所として再評価される機会となればよいと感じた。

#### 【在田 教育長】

最後に、来年いよいよオリンピックの開幕を迎えるが、その点について奥野委員からお話しを伺って意見交換を終了とさせていただきたい。

#### 【奥野 教育委員】

オリンピックが自国で開催されることにより、子どもたちに夢を与えることができる。子どもたちは大人が本気で戦う姿を間近で見ることで、あんな風になりたいとか、本気で戦うことの素晴らしさ等をダイレクトに感じることができる。私は、選手としてバルセロナオリンピックに出場した経験があるが、スペインの人は、世界中のどの国のどの人種の選手が出場しても歓迎してくれ、素晴らしい演技を見せれば、素晴らしい評価をしてくれた。来年日本で開催された時に、私たちが世界中の選手たちをどのように歓迎し、おもてなしするのかによって、日本国民のある種、質が問われる。

本日の会議の中でたくさん話題に挙げた多様性は、オリンピック・パラリンピックにはたくさん含まれている。特にパラリンピックは多様性の塊のようなもの。私自身、パラリンピックに出場したことがある友人から本当の多様性とは何かを教えてもらった。是非、オリンピックだけでなく、パラリンピックにも興味をもち、多様性を学ぶ機会としてほしい。

また、オリンピックはスポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもある。京都では、文化に関連した様々な催しも行われるが、ICOM京都大会と同時に、今後オリンピック関連の文化的イベントもたくさん行われていくので、子どもたちには、こうした機会を捉えて様々なことを感じ、学んでほしい。

#### (3) 閉会

#### 【在田 教育長】

本日はお忙しいところお集まりいただき、また貴重な御意見を頂戴し感謝申し上げます。昨日、教育委員会主催の新任教頭研修で訓示をする機会があった。その中で、いつも述べていることだが、公立学校の強みを生かしてほしいという話をした。公立の学校には色ん

な子どもたちがおり、多様性に溢れている。それが、学校・園にとっては様々な困難を伴うこともあるが、子どもたちが互いに違いを認め合いながら自分も生かし、他人も生かし一緒になって様々なものをつくりあげていく経験をすることができる点が公立学校の強みであることをお伝えした。また、この間、社会の中では大変痛ましい事件が発生している。事件を起こした方がなぜ、そうした行動に至ったのか、原因は明確に究明できないが、そうした方々も学校教育を受けて育ち、今につながっていることは間違いない。悲惨な事件が起きないようにするためには学校教育の中でどうしたらよいのかをもう一度考えていく必要がある。また、社会全体の中でつながりの薄れは、孤立感・孤独感をより一層高めていく。そうした中で社会の病理現象の一つとして、こうした事件につながっているのではないかということにも思いを巡らせていく必要がある。以上を踏まえ、子どもたちが自分のことだけでなく、友達のことにも目を向ける姿勢を学校の中で培っていただきたいとお伝えした。本日、様々な御意見をいただいたが、学校教育の普遍的な部分としては、こうしたことを突き詰めていかなければならない。

加えて、予算が伴うことでもあるが、本日いただいた様々なご提案の中で実現できるものがあれば門川市長や議会にもしっかりと説明し、取り組んでまいりたい。特に、芸術に触れる機会をという意見があったが、来年3月に美術館が新装オープンされ、常設展示が新設される。現在、教育委員会の中で相談しているところだが、小学生が岡崎周辺によく遠足に行く機会がある。その機会を捉えて美術館を訪問し、素晴らしい展示を見る機会を設けられたらなと考えている。本日は様々なご意見をいただきありがとうございました。

#### 【門川 市長】

本日は、教育の本質に迫る様々な御意見をいただき、私自身色々なことを学ばせていただいた。いくつかあるが、まずこの場に保育所の関係者が出席していないという的確な御指摘をいただいた。次回以降注意してまいりたい。

また、子どもの学びと育ちにとって、教育・医療・福祉がしっかりと連携していかなければならないということで、子ども若者はぐくみ局を創設し、そしてすべての区役所・支所に子どもはぐくみ室をつくり2年が経過した。そしてこの4月からは、虐待の問題に対してより的確に対応していくため各区役所・支所に、新たに係長級の職員を配置するなど、子どもはぐくみ室や児童相談所に30名近い職員を配置したところ。また、各区役所・支所の子どもはぐくみ室には、医療系の職員と福祉系の職員、行政職がいるが、その全ての職員が子育て支援コンシェルジュとして、しっかりと研修を積んで、一人一人の方々と寄り添っていくよう取組を進めている。子ども若者はぐくみ局と教育委員会がより緊密に連携するとともに、保育所と幼稚園の連携も促進し、子どもたちを小学校につないでいくことが改めて大切であると感じた。

また、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という本市の教育理念は、「誰一人取り残さない」を合言葉とした世界共通の開発目標である「SDGs」の理念と一致する。

同時に、「SDGs」は子どもだけでなく、社会全体で大人も含めて誰一人取り残さないということを目標としている。いま、在田教育長から話があったが、社会の中ではとんでもない事件が発生している。現実の社会の中で取り残されている人がいる。そうした課題に向き合い、どのように対応していくのかは、今後の社会を考える上で大きなテーマとなる。

もう一つ、教育の普遍的な部分を大切にするという話もあった。以前訪れた学校の教育目標に「未来の町衆を育てる」という目標を掲げている学校があった。京都は町衆の自治によって千年以上の長きにわたりつくられてきた。この町の未来の担い手をしっかりと育てていくのだという大きな気概を感じ、大変心強く思った。

よく、地方自治は民主主義の学校だと言われるが、全くそのとおりである。同時に学校運営協議会をつくり、そして親と地域が子どもに焦点をあてながら、あらゆる活動を展開することにより地域社会がより持続可能なものになっていっている。一方で世界に目を向けると、より自己中心的な考えに基づく行動が増えてきているように感じる。自分だけ、今だけ、そしてすべてをお金の価値に置き換えるという風潮がある中で、どのようにして子どもたちを育てていくのかを考え続けていかなければならない。

オリンピック・パラリンピックは子どもたちに夢を与えるもの。そしてもう一つ、関西ワールドマスタースゲームズがその翌年に開催される。これは大人に高齢者に夢を与えるとともに、スポーツで世界と繋がることができる。6年前にトリノで開催された際に見に行ったが、中高年の方、さらには70、80、90歳になる方々が世界から集まり競い合う姿は、まさに大人たちに夢を与えてくれる。55年前に日本でオリンピックが開催された際は、私はまだ中学1年生であった。パラリンピックというものを知らなかったが、その時初めて、障害のある方があんなに元気に頑張っている姿を見て感動したことを、今でも覚えている。

最後に、公立の強みである多様性を生かしていこうという話があったが、あるお医者さんが、公立で学んでよかったという話をしていて、その理由を尋ねると、患者さんや医療スタッフの方々には実に多様な方がたくさんいる。そうした方々と自然に心が通じ合える。だから公立の学校で学んで本当によかったという話をしておられた。もちろん私学にも各校の建学精神に基づく多様性があり、素晴らしい教育実践をされている。その中で公立は、公立の良さを生かして、そして一人一人が世のため人のために貢献できる子どもを育てていくことが大切であることを改めて感じた。

本日いただいた御意見・御提案については、厳しい財政状況ではあるがしっかりと検討し少しでも前進させていければと考えている。本日はありがとうございました。